



(ひかみちゃん)

# ほだかの里だより



(ほだかくん)

—大高歴史の会会報— 第58号

令和7年(2025) 7月発行(夏号)

「ひかみちゃん」「ほだかくん」は、大高在住のイラストレーター大橋由起子さん作成の「大高歴史の会」のキャラクターです。大高は、昔々、「火上(七か)の里」、または、「火高(杓)かの里」と呼ばれていました。

## 第 58号 目 次

|                            |                         |
|----------------------------|-------------------------|
| 大高の郵便局 … … … … … 深谷 P1~3   | 大高歴史の会のあゆみ … … … … P 5  |
|                            | 大高の伝統行事 第3回 下村&田中神明社例大祭 |
| 大高のできごとあれこれ・大高の行事予定 …… P 4 | …… 山口初宏 … P 6           |

留と小春の歴史茶話

## 大高の郵便局

深谷 篤

大高駅前の喫茶「ひかみ」に、中学の同窓生の3人が居た。留吉、政雄、小春であった。留吉は地元の歴史サークルで、大高のことを調べている。政雄は、若いころは東京で仕事をしていたが大高に戻り、今は喫茶店「ひかみ」のオーナーである。小春は、旦那に死なれ、現在は大高で、娘夫婦と一緒に暮らしている。中学時代は留吉、政雄にとって、小春は憧れのマドンナであった。

小春から「留さん、今日は何の話をしてくれるの?」と聞かれた。

「大高の郵便局の話をしようか。どう?」と留吉は返答した。

「いいじゃない。」と、小春は言った。

「春ちゃん、この写真、見て。」



「写っている建物、見たことがある?春ちゃん。」  
「古い和風の家だね。どこかなあ。」

「八幡社前の、格子のある家だよ。見たことがあるだろう。春ちゃん」

「アア、知ってる。なんの建物?」

「郵便局だったよ。2代目の郵便局。」

「へえ、あの建物が郵便局だった。」と小春は驚いた様子であった。

留吉は資料を出して話し始めた。

「郵便の制度について、少し話すわあ。」

江戸時代はよう、飛脚便があって、手紙など配達していた。明治4年(1871年)3月1日に郵便という新しい制度ができた。この制度の大きな特徴は、

1 利用するには、先に切手を買って郵便物に貼る。

2 全国均一の郵便料金。(明治6年から実施)

明治政府は、鉄道、通信の普及が喫緊の課題と分かっていたが、当時国家財政力は乏しかったので、地方の名主、庄屋に郵便事業を委託した。

開設当時は民営化で始まったということだ。

大高郵便局は、明治28年(1895年)9月2日、大高郵便受取所として開設した。

場所は大高町393番地。今の江明(えみょう)にある辻の秋葉社付近で、所長の私宅を利用した。郵便物の引受けだけで、取り集め、配達は、鳴海郵便取扱所でやっていた。

「写真を見て。」



「辻の所を写したもので、左側の建物は辻助という仕出し屋さん、右側が大高郵便受取所だった。(写真は、東から西の方に向かって写している。

道の先には、神の井酒造がある。)

「留さん。辻助さんの手前が、秋葉社かね。大高の郵便局の始まりは、今から130年前。2代目の郵便局は、いつ頃移ったかね。」と小春は聞いた。

「春ちゃん、移転するまで、変化があったので、話すわあ。」

1 明治28年に開設した。

2 明治32年(1899年)11月1日に、大高郵便局に改称した。

3 以後、為替貯金、電話の取扱いを開始した。

4 明治42年(1909年)3月、集配郵便局となった。

郵便物の取り集め、配達をやるようになり、大高町と上野村(今の東海市名和町)が対象となった。

5 明治44年(1911年)3月16日に、大高北鶴田59に移って、2代目の郵便局となった。

「郵便の取り集め、配達地域が、名和町まであったとは知らなかったなあ。」と政雄が言った。

「そうなんだよ。政。俺も知らなかったわあ。」

「こんな話も聞いた。春ちゃん。年賀配達のために局内の部屋中、年賀はがきをひろげて、徹夜で配達の準備をしたそう。配達地域が広いから大変だったと想像できるわあ。」と、留吉は言った。

留吉は、話しを続けた。

1 大正3年(1914年)7月26日に電話交換が開始された。

2 大正5年(1916年)簡易保険の取扱いが始まった。

「春ちゃん、電話で思い出すのはよう、大正11年、俺の家に電話機が設置された。昭和38年のダイヤル式の電話に替わるまで、部屋の壁に箱型の電話機が取り付けられてあった。俺もこの電話機を使ったことがある。」

「留さん。どうやって使った？」と小春が尋ねた。「電話機には、直径約7cmのベルが二つ付いていた。ベルの下にラッパ状の通話口があった。ちょうどロボットのような顔みただった。耳には受話器を当てて、箱の右側にあるダイヤルを何回か回すと、大高郵便局の電話交換手が出るので、通話口に向かって、こちらの電話番号と、相手のどこの何番と言って、繋げてもらったわあ。」「この写真を見て。」



昭和4年（1929年）3月16日局舎が2階建ての郵便局になった。

「3代目の郵便局だよ。今までは局長さんの私宅で業務をしていたが、今度は敷地内の北東のところに、局舎が新しくできて、そこで業務をすることになった。春ちゃん、政、この郵便局の建物、知ってる？」

「留さん、知ってるよ。私はお母さんと一緒に郵便局に行ったことがあるから。」

「俺は、記憶がないあ。」と政雄が答えた。

「続けるよ。」

1 昭和16年（1941年）2月1日 集配特定郵便局と呼び名を変更した。

2 昭和38年（1963年）10月1日、電通合理化に伴い、電話電信が緑郵便局へ移管した。

「郵便のことで思い出すのは、昭和20年代後半、名古屋市外大高町というあて所と親父の名前しか書いてない封書が配達された。字名、番地も書いてない。当時郵便番号もなかった。ベテランの配達担当者がいたんだ。」

「今なら、あて所不明なんかで、返されるよね。差出はどこ？」と、小春は留吉に尋ねた。

「富山県。よう大高に着いたよ。また、よう配達してくれたわあ。」と留吉は言った。

1 昭和39年（1964年）4月20日、大高郵便局で行なって東海市の名和地域の取り集め、配達は、東海市の上野郵便局に移管した。

2 昭和48年11月15日、無集配郵便局となり、大高町内の郵便物の取り集め、配達は、緑郵便局に移管した。

「大高郵便局で、郵便物の取り集め、配達はなくなったが、郵便番号の「459」は残った。緑郵便局の郵便番号は「458」だけど、大高町の多くの地域は「459」として残っているよ。」

「へー、知らなかった。」と政雄は驚いていた。

昭和50年（1975年）1月13日、局舎を新築し名古屋大高郵便局と局名変更となった。

この写真は、名古屋大高郵便局。



平成13年（2001年）12月17日、局舎を新築した。場所は大高町北鶴田40に移転した。



「大高駅前の土地区画整理事業で、郵便局の場所が区画整理の対象にかかったので、今のところに移転したんだわあ。」

「春ちゃん。一通り、大高の郵便局の歴史を話したが、どうだった。」

「今も、明治44年の郵便局の建物が残っているなんて。素晴らしいことだよ。」

小春も、政雄もうなずいて、留吉の話しに満足したようだった。（完）

※掲載の写真の一部は、名古屋大高郵便局の開局百周年記念資料に掲載の写真を載せた。

**<大高歴史の会のあゆみ>**  
[令和7年(2025)4月~6月]

**<例会>** [第2・第4月曜日9:30~12:00 例会(勉強会)を八幡社参集所で開催]

- 第341回(4/14) ほだかの里だより第25号  
P11 大高の歴史的石造物を訪ねて  
[第25回] 高根山1等三角点 所在地: 緑区高根山1丁目  
P12 史跡説明板の紹介 [第5回 氷上姉子神社]
- 第342回(4/28) ほだかの里だより第26号  
P1~3 <留と小春の歴史茶話>大高あれこれ8 《大高祭り》  
ボランティアガイドの勉強 第1回  
「観光ガイドの心得」 「JR 大高駅」
- 第343回(5/26) ほだかの里だより第26号  
P4~6 尾張の絵師達—その(4)  
ボランティアガイド勉強会 第2回  
「氷上姉子神社」  
酔笑人(えようど) 神事について
- 第344回(6/9) ほだかの里だより第26号  
P7 大高のできごとあれこれ(平成29年4~6月)  
P8~9 大高の古文書 第5回 御鋤祭り(その3)  
P10~11 大高町最後の町長山口紹一と山口家  
P12 史跡説明板の紹介 第6回「伊勢湾台風」
- 第338回(6/23) 大高史料館年央大掃除とDVD鑑賞

**<その他の活動>** [会のあれこれ情報]

「会報第57号(令和7年春号)発行」(4月11日)

約650部、印刷、於 緑区社会福祉協議会 丁合は1月14日の例会にて実施

「ほだかの里だより57号WEB公開」(5月1日)

会報「ほだかの里だより56号」に続き57号が大高地域観光推進協議会)のホームページ表紙のニュース/イベント情報の中に掲載されWEB公開されました。今後、バックナンバーで55~50号まで順次、公開される予定。

「斎山稻荷社例大祭」参拝 5月7日(水)8名参加

会のイベントとして斎山稻荷社例大祭“若葉祭”に初めて参加。当日は晴天の中、本殿にて厳かな御祈禱を受け神事終了後は社務所にて“とうたけご飯と抹茶”を美味しくいただいた。

「野外学習 熱田神宮散策」5月12日(月)7名参加

春の野外学習は熱田神宮散策会を開催。杉江会員の熱意溢れる案内により神宮内の名所を隈なく巡り有意義な学習となった。締め括りは“宮きしめん”を賞味。

**<ガイド実績>** 史跡・町並み散策ガイド依頼受付窓口: 深谷篤 090-8952-8610

- 4月5日(土)12名 大高城跡散策とDVD鑑賞 (深)  
4月19日(土)27名 クアオルト健康ウォーキング「大高城跡散策と酒蔵見学」 (深)  
5月6日(火)9名 頭人祭見学 (深、)  
5月20日(日)22名 大府市西老人会「大高城跡と町筋見学」 (深)  
6月12日(木)18名 松平元康兵糧入れと大高城跡めぐり (深)(上)(杉)  
6月22日(日)19名 氷上姉子神社お田植祭見学と氷上の森 (深)(林田)(大)(浜島鐘)(杉)

**ガイド実績 (4-6月) 6件 107名**

## <大高のできごと あれこれ>

[令和7年(2025)4月~6月]

### 「花まつり」(4月8日)(月)

釈迦の生誕を祝う「花まつり」が長寿寺、薬師寺、春江院にて行われました。

### 「西口地藏尊」(4月26日)(土)

猛暑のため中断していましたが2年振りに開催されました。薬師寺住職による読経の後、地元奉賛関係者による焼香が行われました。来年からは関係者の高齢化により規模が縮小されるようです。



### 「鷲津砦慰霊祭」(5月18日)(日)

晴天の下、大高北学区中之郷町内会連合会主催で桶狭間の戦いの前哨戦である鷲津砦の戦いで犠牲になった戦没者の慰霊祭が現地にて行われました。

### 「丸根砦慰霊祭」(5月18日)(日)

同日、10時30分からは丸根砦の戦いの戦没者慰霊祭も、丸根砦慰霊奉仕会主催のもと行われました。



鷲津砦慰霊祭

丸根砦慰霊祭

### 「あいち都市緑化フェア」(4月29日)(火)

大高緑地にて第37回あいち都市緑化フェアが開催されました。

### 「頭人祭」(5月6日)(月)

当日は晴天の下、熱田神宮から頭人と言われる使者が氷上姉子神社をお参りし神事後、頭人自らが描いた鷹の絵馬を神殿に奉納する「頭人祭」が行われました。

神事終了後、縁起物の粽(ちまき)が神殿前にて参拝者に配られました。



絵馬の奉納

### 「熱田神宮大高斎田御田植祭」(6月22日)(日)

曇り空の下、恒例の御田植祭が熱田神宮大高斎田にて執り行われました。テント内での神事後、早乙女による田舞や奉耕者と一体化した田植え儀式が滞りなく行われ豊作を祈願いたしました。当日は大勢の見物客が訪れ伝統行事を見守っていました。

MRF(緑区ルネッサンスフォーラム)、大高地域観光推進協議会共催の散策会も行われ盛況でした。



田舞

田植え

### 「タカノミャーテ」開催 6月28日(土)

山盛酒造にて開催、6年ぶり復活。“日本酒を楽しむ会”を改め新蔵開き“タカノミャーテ”としてReスタートされました。

## 大高の行事予定(2025年7月~2025年10月)

7月9日(水)龍宮社例祭(旧6月15日)19時30分~

7月26日(土)大高・大高北学区合同納涼夏祭り

9月14日(日)城山八幡社例大祭

9月15日(月)大高地域敬老祝賀式典

9月28日(日)下村神明社例大祭 11時~ 田中神明社例大祭 13時30分~

10月4日~10月5日(土・日)大高祭礼(氷上姉子神社例大祭)

# 大高の伝統行事 第3回 「下村 & 田中神明社 例大祭」

山口初宏

大高には昔から行われている数々の伝統行事がある。その中から代表的なものを<sup>いわ</sup>誦れや内容とともに順次、紹介する。

第3回は下村神明社、田中神明社にて行われている「例大祭」である。

期日 毎年9月最終日曜日

下村神明社11時～ 田中神明社13時30分～

場所 各神明社 境内

所在地 下村神明社 大高町西丸根 26

田中神明社 大高町田中46

祭主 下村神明社:下村講

田中神明社:田中町内会

神明社については前号「ほだかの里だより57号」にて詳細を紹介済みであるので本号では両神明社の例大祭の様子を以下に記す。

[下村神明社]

当日は社殿前に焚火が焚かれ下村講員が集まって山口宮司の下、神事が執り行われる。



神事の開始



大ポタモ子

お供えの大ポタモ子は神事後、会員に振る舞われる。

[田中神明社]

町内会代表参列による神事後、境内に設けられた土俵にて子供相撲が奉納される。



子供相撲

## ほだかの里だより WEB 公開

ほだかの里だより 56, 57号は下記にて公開中

<https://odaka-kankou.com/>

大高の歴史を学び伝える

## 大高歴史の会 会報

### 第58号 2025年7月

[平成21年(2009)4月発足]

連絡先 (代表) : 山口 初宏

〒459-8001

名古屋市緑区大高町字天神44

052-623-2307

散策関係 担当 : 深谷 篤

090-8952-8610

会報は年4回発行の予定です。

(冬1月、春4月、夏7月、秋10月)

会報バックナンバーご希望の方は上記連絡先へお問い合わせ願います

(本号の編集は山口初宏が担当しました)